

# ルーマニア月報

2023年5月号

本月報はルーマニアの報道をもとに、  
日本大使館がとりまとめたものです。

令和 5 年 6 月 9 日  
在ルーマニア大使館作成

## 主要ニュース

### 【内政】

- 5月22日より、教職員組合はストライキを実施。組合員の主な要求は約60%の給与アップ（新人教師の給与を2,400レイから4,000レイへ、熟練教師の給与を5,000レイから7,000レイへ）。
- 上記の教職員組合によるストライキの影響により、チュカ首相は予定されていた5月26日の辞任を延期。
- 5月12日、チュカ首相が博士論文を盗作したと訴えられた事件について、検事総長は不起訴の判断。
- ルーマニアでは欧州議会選挙は2024年6月9日に実施されることが決定。

### 【経済】

- 5月2日、ミクラウス地下鉄メトロレックス総裁は、同日地下鉄6号線北区間の契約に署名した、2027年には完成させることができる旨発言。
- 5月2日、ダデア農業・地方開発相は、EUがウクライナ農産品の流入で被害を受けたルーマニアの農家に対し、約3,000万ユーロの補償を与える決定をした旨発言。
- 5月12日、イサレスク・ルーマニア国立銀行総裁は、年末のインフレ率は7%台に低下、経済成長率も約3%と発言。
- 5月12日、連帯貢献法案の抜本的修正案が可決。修正案では、精製活動で処理される原油1トン当たり350レイ（70ユーロ）を支払う義務が発生する。OMVペトロム社は、保有するペトロブラジ製油所で昨年424万1,000トンの原油を精製処理しているため、ルーマニア国家に14億8,000万レイ（2.96億ユーロ）以上の支払い義務が生じる。
- 5月16日、ルーマニアは歴史上初めて公的債務が7,000億レイ（1,430億ユーロ）を超え、国はルーマニア人1人あたりに7,500ユーロの負債を負っているという計算になる。
- 5月17日、ルーマニア国家サイバーセキュリティ運用評議会は、ルーマニアの公務員が仕事で使用するデバイスにおいてTikTokアプリの使用を禁止することを正式に勧告する決定を下した。しかし、同措置は民間及び公務員の私用電話には適用されない。
- 5月20日、米大統領府はG7開催中に記者発表したファクトシートで、米国は多国籍官民パートナーと共に小型モジュール炉（SMR）プロジェクトに最大2億7,500万ドルの資金提供を行う旨発表した。
- 5月29日、CFR労働者はルーマニア鉄道運輸組合連合が主催する抗議集会を行った。
- 

### 【外政】

- 5月9日、ブカレスト工科大学内において、欧州サイバーセキュリティ能力センター（ECCC）が発足。本センターは、サイバーセキュリティ分野におけるイノベーションと産業政策支援、およびEUサイバーセキュリティ・プロジェクトの開発・調整を目的とする。
- 5月24日、シュタインマイヤー独大統領はルーマニアを訪問し、ヨハニス大統領、チュカ首相、チョラク下院議長、ゴルギウ上院議長代理と会談し、両大統領は25日にシビウ、26日にティミショアラを訪問した。

### 【我が国との関係】

- 5月18日、ルーマニア・アメリカ大学で「Haru Urara Grand Festa 2023」が開催され、植田大使が出席。同イベントではルーマニア出身者による生花デモンストレーションの他、日本人奏者による尺八や三味線の演奏が行われた。
- 5月18日、シビウ国立交響楽団 THALIA ホールにおいて、日本人指揮者の曾我大介氏に対する令和3年度外務大臣表彰授与式が行われた。
- 5月28日、モゴショア宮殿において「モゴショア・クラシックフェスト」が開催され、大使夫妻が出席しました。日本コーナーでは、サンダ・ラズルさんによる生け花の実演と、イリーナ・ラドウスクさんによるマリンバのコンサートが行われた。

# 内政

## (1) 教職員組合によるストライキ

- 5月21日の政府との給与交渉で合意に至らなかったため、教職員組合は5月22日からストライキを実施。
- 組合員の主な要求は約60%の給与アップ。現在、新人教師の給与を2,400レイから4,000レイへ、熟練教師の給与を5,000レイから7,000レイにすることを要求。前回の教育関連ストは18年前に行われ3週間継続。
- 5月24日、政府と教員組合幹部が交渉。政府は合計2,500レイのボーナスの支給を提案したが、組合員側は拒否。
- 5月25日、首相府前の勝利広場で15,000名規模のデモに発展。クルージュナポカ市では4,000名、ブザウ市では1,500名の教職員組合のデモが実施。
- 5月30日、教員組合員2万人以上が首相府前の勝利広場での抗議集会に参加し、その後大統領府前まで行進し集会を実施。組合幹部はヨハニス大統領と会談を行った。
- 5月30日に発表されたIPSOSによる世論調査によれば、ルーマニアの73%が教職員のストを支持。支持のレベルは、教育レベル、収入、働いている専門分野による差はなく、国内のすべての地域の女性、男性によって支持。

## (2) 内閣改造の延期

- 上記の教職員組合によるストライキの影響により、チウカ首相は予定されていた5月26日の辞任を延期。それに伴い、内閣改造も延期。

## (3) 検察はチウカ首相の博士論文盗作疑惑を不起訴

- 5月12日、チウカ首相が博士論文を盗作したと訴えられた事件について、検事総長は、卒業証書は博士の学位を証明・認定する文書に過ぎず、刑法の意味での偽公文書に当たらないため、偽造の罪で起訴することはできないと主張し不起訴。
- 更に、他の著作者の著作物の全部または一部を権利なしに流用し、自己の知的創造物として提示する者の犯罪については、検察は2008年で時効を迎えていると主張。

## (4) ルーマニアにおける欧州議会選挙が2024年6月9日に決定

- ルーマニアでは欧州議会選挙は2024年6月9日に実施されることが決定。
- メツォーラ欧州議会議長は欧州議会選挙を2024年6月6日から9日にかけてEU加盟国で実施される旨発表。同選挙は5年ごとに実施。選挙後、議会はEUの執行機関である欧州委員会の新しい責任者を選出し、全委員を承認するための投票を行う予定。

## (5) チウカ首相による罷免

- 5月30日、チウカ首相はより効率的な国家予算の徴収が必要であるとして、国家関税庁の長官を解任し、国家財政管理庁（ANAF）と国家鉱物資源庁の長官の辞任を承認した。

## (6) 世論調査結果

- CURSの世論調査（日にち：5月19-27日、統計上の誤差：±3%）
- ✓ 政党支持率：PSD 31%（3月時点では33%）、PNL 20%（3月：21%）、AUR 17%（3月：16%）、USR 11%（3月：9%）、UDMR 5%（3月：5%）

# 経済

## (1) 経済概況

- ガソリン価格とディーゼル価格の逆転解消
  - 5月5日、2022年10月にディーゼル価格がガソリン価格よりも高くなって以来、ディーゼル価格はガソリンの価格を下回った。現在の価格はガソリン1リットル6.5レイ（1.3ユーロ）でディーゼル価格はそれよりも低い額で販売されている。
- ディーゼル価格の再逆転
  - 5月8日、ガソリン価格は1リットル6.36レイ（1.27ユーロ）に下落し、一方で本日のディーゼル価格は6.4レイ（1.28ユーロ）で販売された。
- 4月の年間インフレ率11.23%
  - 5月12日に発表された国立統計研究所のデータによれば、年間インフレ率は2023年3月の14.53%から4月に11.23%に低下した。食料品は19.84%、非食料品は5.83%、サービスは10.64%値上がり。
- 今年のインフレ率7.1%予想
  - 5月12日、イサレスク・ルーマニア国立銀行（BNR）総裁は、インフレに関する四半期報告書の発表の際、2023年末のインフレ率は7%台に低下し、経済成長率も約3%が期待される旨述べた。
  - イサレスク総裁は、「景気後退を避けつつ、（インフレを抑えるため）慎重にブレーキを踏みながら、最終的には今年も経済成長が見込まれるだろう。近隣諸国も高インフレと不況に見舞われているが、ルーマニアは成功していると言える」旨述べ、年末のインフレ率は現時点では7.1%となることを示した。
- ルーマニアの公的債務
  - 5月16日の報道によれば、ルーマニアは歴史上初めて公的債務が7,000億レイ（1,430億ユーロ）を超えた。2018年から今日までルーマニアの債務は倍増しており、GDPの50%以上に達している。国はルーマニア人1人あたりに7,500ユーロの負債を負っているという計算になる。
  - クチウ財務相は、「年末時点での債務は（50%を越えず）45.6%と予想されている。支払いのピークをカバーするためにルーマニアが必要とする資金を借り入れる必要がある。7月にはピークを迎え、110億レイ（22億ユーロ）の支払がある」旨述べた。
- ルーマニア公的機関でのTikTokの禁止
  - 5月18日、国家サイバーセキュリティ総局（DNSC）、ルーマニアの公的機関や団体のコンピュータシステムにおいて、「TikTok」のダウンロード、インストール、使用を禁止するよう勧告した。
  - 5月17日、ブルドゥジャ研究・イノベーション・デジタル化大臣は、ルーマニア情報局（SRI）のCyberintセンターがTikTokアプリケーションをテストした結果、ユーザーの個人データへのアクセス、ユーザーのプロファイルの作成、ユーザーがオンラインでやりとりする第三者のデバイスへのアクセスが可能であることを発見した旨発表した。
  - 5月18日、モバイルアプリ「TikTok」を所有する中国企業は、ルーマニアの公的機関や当局で同アプリの使用を禁止するというルーマニア政府の決定に反発し、SRIの情報は不正確であると非難した。

## (2) 抗議デモ

- 教育関係者による抗議デモの継続
  - 5月22日、教育関係者による抗議デモが開始され、15万人以上の教職員と約7万人の教育補助職員が参加し、デモは継続中である。
  - 5月24日、ネアシュ政府官房長は、政府が教育自由労働組合連合（F S L I）と行った交渉の終わりに、政府は6月と10月に教師に対し、それぞれ1,000レイ（200ユーロ）と1,500レイ（300ユーロ）の一時金を与えることを提案した旨述べたが、「給与自体の増額は認められない」旨述べた。
  - 同日、チウカ首相は閣議冒頭で、教育相、労働相、財務相からなる閣僚チームの結成を指示し、問題に対処する旨述べた。
  - 同日、ヨハニス大統領は、教育分野のストライキは深刻な問題であり、労働組合の多くの要求に対して解決策はあるが、今日明日に全ての要求が満たされる訳ではない旨述べた。
  - 5月25日、カルブナル政府報道官は、「教員給与は引き上げられるが、当該決定が法的に確定するまでは一時金による対応になる」旨述べた。
  - これに対し、フンチエスク F S L I 代表は、「教育者たちは一時金ではなく、給与自体の増額を求めている。これは教育関係者達が将来の年金額の増加に寄与するため給与自体の増額を求めているためである」旨説明した。
- 鉄道関係者の抗議デモ
  - 5月29日、C F R労働者は6日にルーマニア鉄道運輸組合連合が主催する抗議集会を行った。C F R労働者は、労働条件の悪化が継続しているだけでなく、従業員の業績や効率を高める給与システムになっていない旨批判している。
  - C F R旅客社の労働者は、法律で約束されている鉄道車両の修理資金やインフラへの投資不足により、2023年のC F R旅客社の列車の運行状況が悪化していることに憤慨している。労働者達は、物価が2倍になっているにもかかわらず、C F R旅客社が前年よりも少ない予算しか配分されていない旨訴え、改善を求めている。
- 刑務所所属の警察関係者の抗議行動
  - 5月31日、全国警察労働者連盟（F S A N P）は、刑務所所属の警察官には抗議活動の権利がないため、ストライキの回避をしつつ、職員の不足、施設の脆弱性等について、白い腕章を付けて抗議の意思を示しつつ必要最低限の労働を約4時間継続した（当館注：当地の言葉で最低限の勤務をしながら抗議の意思を示す「日本式スト」の形態で実施）。

### (3) 農業

- 欧州委員会からのルーマニア農民への補償
  - 5月2日、ダデア農業・地方開発相は、欧州委員会がウクライナからの穀物輸入により影響を受けたルーマニアの農家に対し、約3,000万ユーロの補償を与えることを決定した旨述べた。
  - ダデア大臣は「ルーマニアは2,973万ユーロを受け取る。これは適正額と言える。ルーマニアの農家に真の支援を提供することになるだろう」旨述べた。
  - ダデア大臣は、既に受け取った2,000万ユーロに加え、今回追加され3,000万ユーロとなる旨述べた。今後、可能な限り早急に農家に補償が届くようにしたい旨述べた。
  - また、ダデア大臣はP S D（社会民主党）が以前に発表したように別途3,000万ユーロが国家予算から加算される旨言及し、E Uからの約3,000万ユーロに加え、ルーマニアは国の援助により農民の補償額を倍増する旨述べた。
- 今年のコンスタンツァ港におけるウクライナ農産品輸出の減少
  - 5月3日、ロイター通信の分析によれば、ルーマニアの今年の穀物生産量は増加することが見込まれており、ウクライナ農産品輸送の重要な中継基地となってきたコンスタンツァ港を経由するウクライナの貨物輸送が減少する可能性がある。
  - 穀物と植物油の世界有数の輸出国であるウクライナは、2022年2月のロシアのウクライナ侵攻後、全ての黒海の港が封鎖され、E U諸国を経由する代替輸送ルートに変更を余儀なくされた。昨年7月に調印された穀物輸送のブロック解除に関する合意で黒海にあるウクライナの3つの港（主な港はオデーサ）のブロックは解除されていたが、コンスタンツァ港は依然として、ウクライナ産品の最も重要な海上輸送の代替手段である。
  - これまで、ウクライナの穀物輸出のほぼ3分の1がコンスタンツァ港を通過した。2022年には860万トンが出荷され、今年上半年期には330万トンが出荷される予定である。

### (4) インフラ

- 地下鉄6号線の工事契約署名
  - 5月2日、ミクラウス地下鉄メトロレックス社総裁は、2027年までにルーマニア人はアンリ・コアンダ国際空港まで地下鉄で移動できるようになるだろう旨述べた。
  - ミクラウス総裁は、「地下鉄M6号線全体が完成する予定は2027年となる。昨2022年3月8日、ロット1.1（南区間）の工事契約に署名し、本日ロット1.2（北区間）の契約に署名した。年末までに、交通自動化システムやM6を運行する車両12両を購入する手続きを進める。2027年にはM6線に旅客を乗せて運行させることができるだろう」旨述べた。
  - グリンデアヌ運輸・インフラ相は、「長い年月を経て、この契約に署名することができた。この契約は10年以上もの間、議論されてきた。ここ数年間の全ての中断を経て、2021年からのこのプロジェクトの中断が克服され、今回の工事契約が署名された。ルーマニアの行政上の停滞を克服する知恵を持ってくれた日本のパートナーに感謝する」旨述べた。
- ブライラ橋の部分開放
  - 5月17日、グリンデアヌ運輸・インフラ相は、近日中、ブライラ橋の進捗を視察する旨述べた。同大臣によれば、先週運輸・インフラ省関係者が建設現場を視察し、橋の開通日について原則6月27日になるとの見解を示したとのことである。
  - グリンデアヌ大臣は、「建設業者に良い意味で一定のプレッシャーをかけるために（6月27日という）日にちを指定している。これは、橋の開通が昨年12月から今年2月になり、2月が4月になり、4月が5月に、そして5月から6月になっている。近日中にブライラを訪問するので、正確な日付けをお伝えしたい。今後、足場の解体などが行われるため、通行止めにならないといけない局面もあるだろうが、自分としてはできるだけ早く橋の開通に取り組みきたい」旨述べた。

- 地下鉄運転本数の削減

- 5月19日、ミクラウス地下鉄メトロレックス社総裁は、「地下鉄の保守点検を行うアルストム・トランスポート社が運行に必要な列車数を整備できないため、地下鉄の運行間隔を変更する必要がある」旨発表し、「今後、ラッシュの時間帯には運行間隔が10分になる可能性がある」旨述べた。また、同総裁は、乗客に生じる不快感を理解し、地下鉄の列車の運行を監督するメトロレックス社職員一同は、列車の運行間隔を通常の運行スケジュールにできるだけ近づけるように有効な措置を講じ、生じる影響を制限する」旨述べた。

## （５）エネルギー

- O M Vペトロム社の連帯税支払い

- 5月12日、議会で連帯貢献法案の抜本的修正案が賛成182、反対38、棄権44で可決された。本修正は「条文に解釈上の曖昧さがあり、欧州の法律違反につながる状況を引き起こす可能性」があったために行われたという連立与党の主張により修正された。
- 修正案では、石油採掘と精製活動を同時に行う企業のみが納税義務を負うことになる。この状況にある唯一のルーマニア企業はO M Vペトロム社のみとなる。精製活動で処理される原油1トン当たり350レイ（70ユーロ）を支払う義務が発生する。
- 2022年の同社の年次報告書によると、O M Vペトロム社は、保有するペトロブラジ製油所で昨年424万1,000トンの原油を精製処理しているため、ルーマニア国家に14億8,000万レイ（2.96億ユーロ）以上の支払い義務が生じることになる。
- 修正案の規定では、2018～21年の期間にその対象となる部門で生産を行わなかった企業は連帯貢献を負わないという規定も導入され、このため、昨年夏に生産が開始された黒海のメディア沖合天然ガス境界線の利権者は超過課税を免除される（3つの利権者、Black Sea Oil&Gas (BSOG)、Petro Ventures Resources、Gas Plus Dacia）。

- ルーマニア小型モジュール炉（S M R）に関する米大統領府記者発表

- 5月20日、米大統領府はG7開催中に記者発表したファクトシート「グローバル・インフラ投資パートナーシップ（PGII）」で、米国は米国と多国籍官民パートナーがルーマニアの小型モジュール炉（S M R）プロジェクトに米国輸出入銀行の独自のエンジニアリング・プログラム9,900万ドルを含む、最大2億7,500万ドルの資金提供を行う旨発表した。
- 更に、米輸出入銀行と米国際開発金融公社（D F C）は、プロジェクトの進展に応じて、それぞれ最大30億ドルと10億ドルの支援を行う旨の関心表明を行った。
- ルーマニアのS M Rへの資金提供に関与したパートナーは、日本のJ B I C（報道ママ）、プライベート・エクイティ・コリア、ルーマニア輸出入銀行、ヌクレアエレクトリカ社、Nova Power & Gas社、E N E C（U A E）、米輸出入銀行及び米D F Cである。

- コンバインドサイクル発電所の建設

- 5月26日、ポベスク・エネルギー相は、ミンティア（ルーマニア西部フネデアラ県）の発電能力1,750MWのコンバインドサイクル発電所（当館注：ガスを燃焼させガスタービンを回した排気の余熱で水を沸騰させ、蒸気を使って更に蒸気タービンを回す効率の良い発電方法）の建設と試運転に関する契約が締結された旨述べ、当該契約金は6億7,350万ユーロ（ギリシャ資本AVAXグループとマス・グループ・ホールディング（MGH））、建設期間は38ヶ月、約700人の雇用が創出される。
- ポベスク大臣は、「ミンティア発電所は2026年夏に稼働する予定である。同時に、プラントは、水素をベースとした新しいエネルギー生産技術への移行に備えて準備される予定である」旨述べた。

（６）主要経済統計（国家統計局、財務省、ルーマニア中央銀行、発表）

<国家統計局>

- 貿易赤字（2023年3月末）：68億200万ユーロ（前年同期比－3億9,970万ユーロ及び－5.6%）
- GDP成長率（2023年第1四半期）：対前期比（季節調整後）0.1%，対前年同期比2.3%（同調整前）・2.8%（同調整後）
- 失業率（2023年3月）：5.4%

<財務省>

- 財政収支（2023年4月末）：273億5,420万レイ(GDP比1.72%の赤字)（前年同期：163億3,310万レイ、GDP比－1.23%の赤字）

<ルーマニア中央銀行（BNR）>

- 外貨準備高(2023年4月末)：533億4,100万ユーロ（前月：532億2,900万ユーロ）
- 金準備高（同）：103.6トン（前月から不変）
- 経常収支（2023年3月末）：50億400万ユーロの赤字。（前年同期：54億2,900万ユーロの赤字）
- 外国直接投資（FDI）（2023年3月末）：25億8,700万ユーロ。（前年同期：28億8,700万ユーロ）
- 中長期対外債務（同）：1,072億7,400万ユーロ(2022年末比：+9.8%)(対外債務全体の69.3%)
- 短期対外債務（同）：474億4,900万ユーロ（2022年末比：+1.3%）(対外債務全体の30.7%)

■マクロ経済

（特に記載のない限り、対前年比又は前年同期比、季節調整後、出典は国家統計局INS）

【5月時点の消費者物価指数】

|                      | 2月                            | 3月                            |
|----------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 全体                   | 14.53%                        | 11.23%                        |
| 食料品価格                | 21.56%                        | 19.84%                        |
| 非食料品価格               | 11.06%                        | 5.83%                         |
| サービス価格               | 10.83%                        | 10.64%                        |
| 消費者物価指数<br>（ユーロスタット） | ユーロ圏<br>6.9%<br>EU27国<br>8.3% | ユーロ圏<br>7.0%<br>EU27国<br>8.1% |

【5月時点】

| （１）鉱工業               | 2月                               | 3月                               |
|----------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 工業生産高                | ▲4.9%                            | ▲3.4%                            |
| 工業売上高（名目）            | 7.0%                             | 3.1%                             |
| 工業製品物価指数             | 21.6%                            | 13.6%                            |
| 新規工業受注高（名目）          | 8.1%                             | 7.8%                             |
| （２）販売                |                                  |                                  |
| 小売業売上高<br>（除自動車・バイク） | 3.2%                             | 6.7%                             |
| 自動車・バイク売上高           | 11.1%                            | 16.2%                            |
| 小売業売上高<br>（ユーロスタット）  | ユーロ圏<br>▲3.0%<br>EU27か国<br>▲3.1% | ユーロ圏<br>▲3.8%<br>EU27か国<br>▲4.1% |
| （３）建設工事              |                                  |                                  |
|                      | 10.8%                            | 17.8%                            |

（４）輸出入

|    | 2月                      | 3月                      |
|----|-------------------------|-------------------------|
| 輸出 | €78億7,460万<br>(11.8%)   | €87億6,130万<br>(6.5%)    |
|    | RON387億480万<br>(11.2%)  | RON430億9,610万<br>(5.9%) |
| 輸入 | €99億2,210万<br>(4.2%)    | €111億9,810万<br>(3.5%)   |
|    | RON487億6,410万<br>(3.5%) | RON550億9,090万<br>(3.0%) |

## 外政

### (1) ウクライナ避難民状況

- 避難民の流入状況  
6月7日、24時間で、ウクライナ人11,391人がルーマニアに入国。昨年2月10日から6月7日24時までに、ウクライナ人のべ4,457,979人がルーマニアに入国。
- UNHCR 発表データ  
5月20日時点で、94,179人のウクライナ人がルーマニア国内に滞在しており、132,362人が一時的保護に登録している。昨年2月24日から5月14日までに、ウクライナ避難民は、ウクライナ国境から2,377,264人が、モルドバ国境から978,116人がルーマニアに入国している。また同期間、1,967,334人のウクライナ避難民がルーマニアからウクライナに入国している。

### (2) 欧州関係

- 欧州サイバーセキュリティ能力センター、ブカレストに開設
  - 5月9日、ブカレスト工科大学内において、欧州サイバーセキュリティ能力センター（ECCC）が発足。
  - 本センターは、サイバーセキュリティ分野におけるイノベーションと産業政策支援、およびEUサイバーセキュリティ・プロジェクトの開発・調整を目的とする。
  - 欧州サイバーセキュリティ能力センターは、現在の長期EU予算（2021-2027年）のEU資金の管理、特にサイバーセキュリティ作業プログラムの採択、デジタル・ヨーロッパ・プログラムおよびホライゾン・ヨーロッパの下でのサイバー・プロジェクトの管理を担当する。また同日、ショルツ独首相、ヨハニス大統領、サンドゥ・モルドバ大統領による3カ国首脳会合も実施された。
  - 欧州委員会が提案する欧州サイバーシールドの一環として、セキュリティオペレーションセンターに関するプロジェクトを管理し、各国のコーディネーションセンターのネットワークと協力して、EU全域でサイバーセキュリティのイノベーションと競争力のためのエコシステムを構築していく予定である。
- モルドバに関する世論調査
  - Avangardeが4月に行った世論調査によると、回答者の33%がモルドバを将来的にルーマニアに併合すべきとし、54%が併合すべきでない旨回答した。
  - また、モルドバがロシアに侵攻された場合にルーマニアはモルドバを軍事支援するべきかという質問に対しては、48%が反対、29%が賛成であった。
- 独大統領のルーマニア訪問
  - 5月24日、シュタインマイヤー独大統領はルーマニアを訪問し、ヨハニス大統領、チウカ首相、チョラク下院議長、ゴルギウ上院議長代理と会談し、両大統領は25日にシビウ、26日にティミショアラを訪問した。
  - 両大統領は、ウクライナへの支援、モルドバが現在直面している大きな困難、二国間関係、シェンゲン協定加盟について議論した。

- **ヨハニス大統領とゼレンスキー・ウクライナ大統領との二国間首脳会議**
  - 6月1日、欧州政治共同体首脳会合に出席のためモルドバを訪問中のヨハニス大統領はゼレンスキー・ウクライナ大統領と首脳会議を行った。
  - 両大統領はウクライナの欧州・大西洋統合に関する大統領共同宣言に署名した。
- **チャールズ英国王のルーマニア私的訪問**
  - 6月2日、チャールズ英国王はルーマニアを訪問した。今回のルーマニア訪問は私的訪問との位置づけであるが、チャールズ国王の即位後の外国訪問はドイツ（公式訪問）に続き2回目。

### (3) その他の二国間関係

- **韓国首相のルーマニア訪問**
  - 5月10日、韓恵洙・韓国首相は、ルーマニアを訪問し、ヨハニス大統領、チウカ首相、チョラク下院議長、ゴルギウ上院議長代理と会談した。
  - 両首相は、The Administration of Sea Ports（国営企業）と釜山港湾公社との間の覚書の調印式に参加。
  - チウカ首相は、「チェルナヴォダ原子力発電所の新しい3号機と4号機の稼働に向けた協力や、小型モジュール炉の開発における韓国企業の関与についてすでに合意している」旨述べた。
  - また、ルーマニアの文化機関が近々ソウルに開設される予定であることを明らかにした。

### (4) 軍事・安全保障

- **国会、35 億ユーロ以上の武器契約を承認**
  - 5月18日、下院と上院の合同常任理事会は、国防省の要請により、ルーマニア陸軍の装備プログラムの一部に関連する調達契約の締結手続きを開始することを承認。
  - 10 億ユーロ：米国との政府間協定に基づき、エイブラムス戦車 54 両と戦車シャーシの派生型 12 両。
  - 20 億ユーロ：フランス海軍グループのスコルペネ級潜水艦 2 隻
  - 1 億 5000 万ユーロ：中古のサンダウン級機雷掃海艇 2 隻 英国
  - 3億5000万ユーロ：米国の調達プログラム-NSM対艦ミサイル発射システム、弾薬、戦闘管理システム（CMS）、レーダーシステムの設置（すべてルーマニア海軍のTARANTUL級ミサイル艇3隻分）

## 我が国との関係

### (1) 植田大使の「Haru Urara Grand Festa 2023」への出席

- 5月18日、ルーマニア・アメリカ大学で「Haru Urara Grand Festa 2023」が開催された。
- 同イベントではルーマニア出身の日本人アーティスト、ニコレッタ・オブリシャンによる生花デモンストレーションの他、日本人奏者による日本の伝統的な楽器である尺八（小濱明人）や三味線（小山豊）の演奏が行われた。
- ステージパフォーマンスの後、ルーマニア・アメリカ大学の「Angela Hondru」ルーマニア日本研究センターの成績優秀者への表彰式が行われ、植田大使は Bendis Marinescu さんに最優秀賞を授与した。



「Haru Urara Grand Festa 2023」様子

### (2) 曽我大介指揮者に対する外務大臣表彰の授与

- 5月18日、シビウ国立交響楽団 THALIA ホールにおいて、日本人指揮者の曽我大介氏に対する令和3年度外務大臣表彰授与式が行われた。右はコロナ禍で実施を見合わせていたものです。
- 曽我氏は、1992年から音楽を通じた東京都武蔵野市とブラショフ市（ルーマニア）の交流に携わり、両市の関係を1998年に姉妹都市協定締結にまで押し上げた立役者である。両市の姉妹都市協定締結後も、両国各地の交響楽団の指揮者として、音楽を通じた人物・文化交流に尽力する他、ルーマニアで日本文化紹介イベントを開催する等、日本や日本文化への理解を深める活動も積極的にを行い、二国間関係の発展に継続的に貢献されてきた。
- 同式典では、北川参事官より、外務大臣表彰受賞をお祝いし、授賞式の開催に協力いただいたシビウ国立交響楽団に謝意を表明した。



曽我大介指揮者に対する外務大臣表彰の授与

### (3) 植田大使の「モゴショアイア・クラシックフェスト」への出席

- 5月28日、モゴショアイア宮殿において「モゴショアイア・クラシックフェスト」が開催され、大使夫妻が出席した。
- 同宮殿は1702年に建てられた、当時のワラキア（ルーマニア）国、ブルンコヴェアヌ国王の邸宅の1つで、ブカレスト市の中心から車で30分の所に位置する美しい宮殿。
- 毎年恒例の「モゴショアイア・クラシックフェスト」は世界各国をテーマにしたワークショップやコンサート等が繰り広げられる催しで、今年は5月27日～28日の二日間にわたり、日本をはじめインド、中国、アルメニア等合計10か国がそれぞれの文化を紹介する活動が行われた。日本コーナーでは、サンダ・ラズルさんによる生け花の実演と、イリーナ・ラドゥレスクさんによるマリンバのコンサートが行われ、観客の方々の大好評を博した。



「モゴショアイア・クラシックフェスト」の様子

### (4) 植田大使と加藤友康在大阪ルーマニア名誉領事との会談

- 5月26日、植田大使は、ルーマニア来訪中の加藤友康在大阪ルーマニア名誉領事と会談し、本邦での活動状況や、今後の日・ルーマニアに関する文化交流・地方都市間の交流・大学間との交流等の様々な分野について意見交換を行った。



加藤友康在大阪ルーマニア名誉領事との会談